

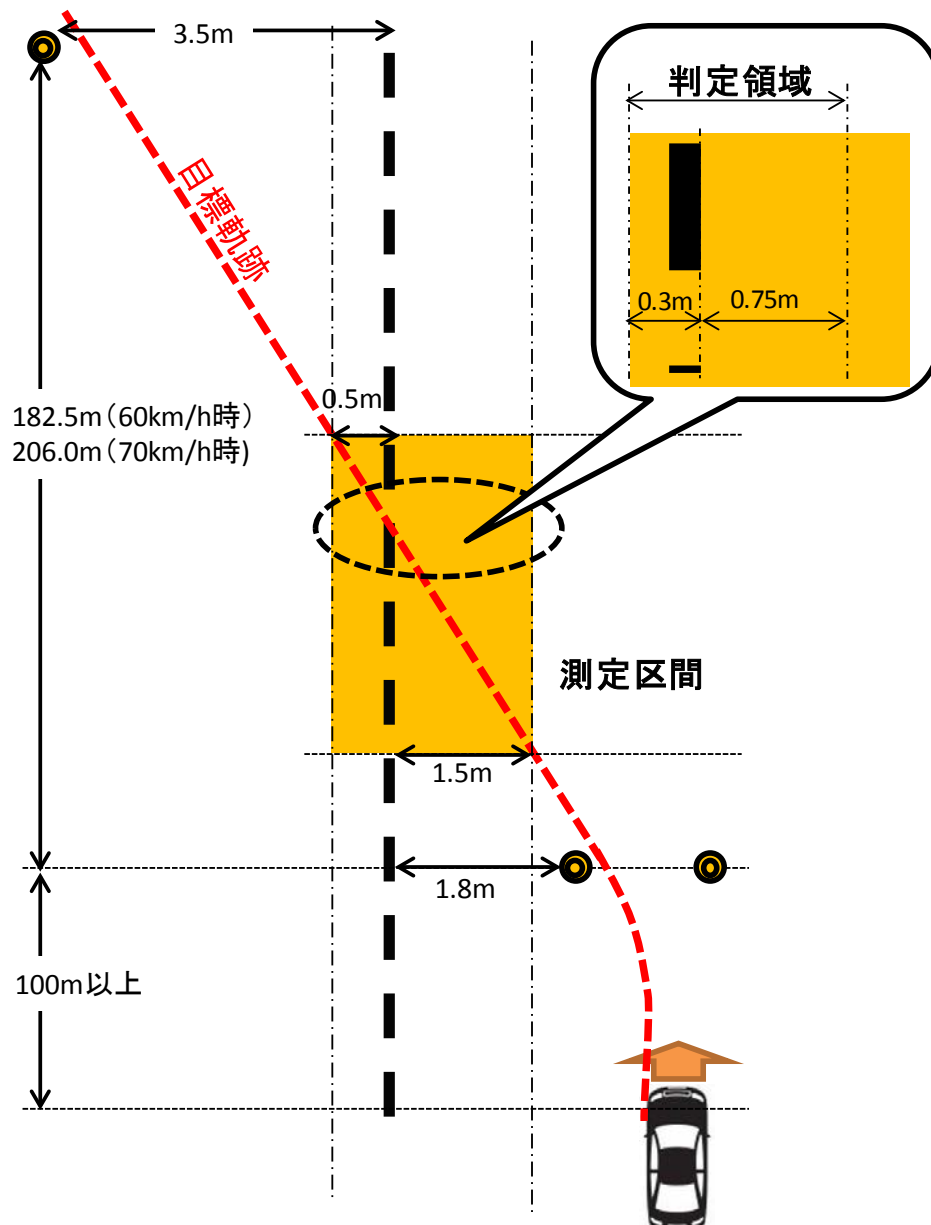
車線逸脱警報装置（LDW）の試験方法・評価方法の概要について

1. 試験方法

米国のCANCAP（Collision Avoidance New Car Assessment Program）で導入している試験方法を基本に、日本の事故実態等に合わせ、以下の項目を変更する。

- (1) 試験速度を、CANCAPで定められている72km/hから、日本の事故実態を鑑みて60km/hに変更する。ただし、60km/hで機能しない装置にあっては、70km/hで試験を行う。
- (2) 車線（レーンマーカー）の種類は、日本の道路構造の法規に定められたものとする。
- (3) 一定の早さで車線に近づいた場合に、下図の判定領域内での警報を確認する。

(図)



2. 評価方法

(1) 試験速度において、LDWが作動することで、その試験速度における配点を得点とする。

60km/hから作動する車線逸脱警報装置の評価点は、平成21年度のデータを基に算出した事故低減効果の算出結果から8.0点であった。(表1)

(2) 事故低減効果算出結果から次の得点を付与する。

- ① 60km/hから作動する装置には8.0点を付与する。
- ② 70km/hから作動する装置には2.5点を付与する。

表1. ASV技術の事故低減効果に基づく予防安全アセス評点

整理#	ASV No.	装置の種類	ASV技術の名称	平成24年度第4回予防安全WG資料(高額順に再編集)						
				案1 死亡事故	案2 死亡・重傷	案3 死亡・重傷 社会的損失	死亡事故 低減件数 (a)	重傷事故 低減件数 (b)	死亡+重傷 事故低減件数 (a)+(b)	社会損失額 (a)*3億円+ (b)*0.8億円
5	(10)	警報	車線逸脱警報装置(LDW)	17	14	15	103	448	551	667
			(危険認知速度を51km/hとして算出)	11	6	8	67	206	510	366